

平成 31 年度 教養学部 地域社会学科 中期入学試験 講評

1. 出題の意図

課題文は、大門正克『語る歴史、聞く歴史—オーラル・ヒストリーの現場から—』（岩波書店、2017 年）の一部である。引用箇所は、中国史・ベトナム史の研究者であった吉沢南が、どうして聞き取り調査を重視するようになったのか、どのような点に留意して聞き取りを行ったのか、そして吉沢によるベトナム史研究にどのような成果があったのか、を整理したうえで、聞き取り調査のあり方について検討している。

聞き取り調査は、歴史研究のみならず、地域研究や地域調査において不可欠のものであり、大門『語る歴史、聞く歴史』においても多様な分野での聞き取り調査の方法と意義について言及している。本学の地域社会学科においても、基本的な方法として重視されるもので、課題文を熟読することで、高校生なりに「聞き取り」というものの意義や方法的な特長について、主体的に考えてほしいというのが出題の意図である。

2. 評価のポイント

問 1

吉沢が聞き取りを通して衝撃を受けた理由を問う読解問題である。吉沢がハノイに滞在していた状況を踏まえて、下線部以下の課題文を中心にまとめることになる。ベトナム現代史を専攻し研究していた 1979 年に至るまで、戦時中の日本の影響があったことを具体的に説明することが必要になる。

評価のポイントは、1) 吉沢がハノイでベトナム現代史を研究していたこと、2) 戦時中の日本によってベトナムに動員された台湾人がハノイに在住していたこと、3) その台湾人が難民船で出国したこと、4) この事件の背後に隠れていた日本の存在があったこと、の主として 4 点が述べられているかである。

問 2

吉沢による聞き取りの方法を問う読解問題である。吉沢による聞き取りの方法に関する内容は、下線部以下の課題文の中で広く触れられている。これらを読み取ったうえで、指定された字数以内でまとめることが求められる。

評価のポイントは、1) 聞き取りの資料を「生きた資料」と呼んで、その固有性を踏まえたこと、2) まず語り手の人生の歴史を聞くことから始めたこと、3) 語り手の感想や価値観に疑問を投げかけ、吉沢の感想や評価を対置させ、討論すること、4) 語り手が忘れようと沈黙することに留意すること、5) 資料批判を進めたこと、6) 緊密な信頼関係が作り出される可能性もあること、などの点が述べられているかである。

問 3

前段で、吉沢の聞き取りによって明らかにされた戦前・戦後の林文荘さんの国への帰属とかわる体験をしっかりと整理すること、そして後段で、吉沢による聞き取りの成果も参考にしながら、歴史の研究や学習における聞き取り調査の価値や意義について自分の見解を述べることが求められている。

前段では、1) 台湾人の林文荘は、戦前ベトナムで日本が行った黄麻強制裁培の現地指導員として動員されたこと、2) 戦後もベトナムに在住した林さんは、1954年と59年にベトナム在留日本人として日本に帰る決意をしたが「日本人でない」と日本政府に拒否されたこと、3) 中国の文化大革命が収束に向かった1968年には、中国大使館に中国籍の申請をしたが返事はなかったこと、4) ベトナム戦争終結後、ハノイに日本大使館が開設されたとき「日本人」としての帰国を申請しても確実な返事がないままであったこと、5) インドシナ情勢の変転のなか1979年にベトナム難民として出国し、日本に至ったこと、などが述べられているか。

後段では、「聞き取り」に関する、歴史の研究や学習での価値や意義についての解答となっているか。また、吉沢による聞き取りの成果を参考にしているか、がポイントとなる。たとえば、1) 歴史を民衆レベルで見直し新たな「事実」を掘り起こすことができる、2) 少数の人が語る歴史には事実の誤認もあり一般化をすることは困難ではないか、3) 聞き取りをおこなう側の能力に左右されるため読み手も慎重になる必要がある、など多様な視点から「聞き取り」の意義や問題点を述べているかが重要である。

3. 採点講評

問1

多くの解答が、1) 2) 3) について書くことができたが、4) に触れている解答は多くなかった。吉沢が衝撃を受けた理由を不足なく説明することが求められる。

問2

多くの解答が、3) 4) 5) について書くことができたが、1) 2) 6) に触れている解答は多くなかった。下線部以下で述べられている内容を中心に読み取り、文章表現が冗長にならないように、要点を押さえて、指定字数以内でまとめることが求められる。

問3

多くの解答が、前段での事実認識については書かれていた。ただし、戦前に関する、1) 台湾人の林文荘は、戦前、ベトナムで日本が行った黄麻強制裁培の現地指導員として動員されたこと、に触れた解答は多くなかった。後段については、高校の授業や行事で聞いた被ばく体験談などに触れたものも多くあったが、主体的な聞き取り調査の意義についてふれてほしかった。課題文での吉沢による聞き取りの成果をしっかりと踏まえた自分なりの考察が求められる。